

◆保護者のニーズ

- ・物事の理解が難しい、言葉が届きにくい(返答がない)
- ・口に物を入れる
- ・園で先生の話聞いているか、座れているか、友だちとやり取りがあるか心配
- ・自分の気持ちを言葉で伝える、出来た!を増やして自信を持たせたい、色々経験させたい

◆ビデオでの様子

- ・自発的な始発が少ない(目的を達成するための)、受け身になっている
- ・自分から活動に取り組むことが少なく、意味が分かっていないことが多いはず
(よく分からないまま過ごす、周りをなんとなく見て動く、先生に言われたことをする)
- ・覚醒が低い(活動を理解できないから?→アセスメントが必要)
- ・共同注意や社会的参照はまだ曖昧、やり取りの機会が設定として少ない
(働きかけのタイミングが曖昧、流れの中で注意を引きつけられていない)
- ・喜びは表現しているが、、、「終わったら喜ぶ」パターン的で感情と実状が伴っていない
- ・「口に物を入れる」→どの程度、適切な入力が出てきているか(捉えられているか)が大切

◆SAP 目標

子どもの目標		大人の目標	
JA2.3	社会的パートナーの注意の焦点をモニターする	IS1.2	子どもの情動やペースに同調する
JA5.3	交代する	IS2.3	始発のターンと応答のターンのバランスをとる
JA6.1	物についてコメントする	IS4.2	コミュニケーションする前に子どもの注意を確保する
SU2.3	視覚的手がかりを用いた指示に従う	IS6.2	言語情報の複雑さを子どもの発達水準に合わせる
SU3.3	他のものに向けて様々な身近な物を慣習的に使用する	LS1.1	活動に明確な始めと終わりを定める
MRI.2	様々な情動を表出するシンボルを理解し、使用する	LS4.4	注意を高めるために、学習環境を整える

◆今後の方向性

- ・活動の提示の仕方、見通しの持たせ方は重要
→呈示する人にどの程度注意が向くのか?(物が多いと呈示している人に注目しづらい)
- ・やり取り感を楽しめる活動の提供
→「誰が何を話しているか、どんな表情をしているか」が分かると、三項関係へと進む
→本人の身近なものを題材(生活体験に結びつける)にして役になりきる中で、普段身近な大人の真似がどの程度表出されるか
- ・本人が楽しく参加できて、達成感のある盛り上がる環境を作る
→理解できる内容であると覚醒も安定する可能性がある
→入力系(理解)の活動は、感じたことを自然と表現できる(感情も含めて)